

堀江薫（名古屋大学・編集委員長）

本稿は、The Japanese Society for Language Science(JSLs)の論文集 Studies in Language Sciences(SLS)投稿のための諸注意をまとめたものである。

フォントは、日本語の場合 MS 明朝（か、それに類したもの）、英語の場合 Times（か Time New Roman など、それに類したもの、発音記号は、SILDoulosUnicodeIPA¹）を用いる。

注意1. 以下で「キャピタライズ」とは、主要語、固有名詞、および4文字以上の単語の先頭を大文字にすることをいう（APA3.13）。コロンやダッシュの後の語も大文字にする。ただし、ハイフンでつながれた普通の語の場合は、ハイフンの後は大文字にしない。

注意2. APA のスタイルを原則採用するので、以下の文献を入手しておいてほしい。

American Psychological Association (Eds.) (2009). *Publication Manual of the American Psychological Association* (6th ed.) Washington D.C.: American Psychological Association.

なお、<http://www.apastyle.org/>も参照のこと。この日本語訳『APA 論文作成マニュアル 第2版』が2011年に医学書院から出版されている（前田・江藤・田中訳）。

以下の諸注意は、SLS-template.doc（もしくは Word 用の書式ファイルである SLSstyle.dot）を参照しながらチェックしていただきたい²。

1. 書式（ページ設定）Word: 「ファイル」の「ページ設定」を使う

左、右、上：20mm、下 15mm、標準の文字数

A5 サイズ（148mm × 210mm）

1.1. ヘッダーとフッター「表示」の「ヘッダー・フッターの設定」

端からヘッダーまで 10mm、端からフッターまで 10mm

「先頭ページのみヘッダー・フッター別指定」と「偶数／奇数ページ別指定」を選択すること。

¹ IPA フォントは <http://scripts.sil.org/> から無料で入手可能。

² SLSstyle.dot ファイルは書式をグループ化したファイルである。使い方は、Appendix B を参照のこと。

1.1.1.1 枚目のフッター

これは編集者が使用する。左寄せ、8pt の大きさに書誌情報を入れる。

1.1.2. 偶数枚目のページのヘッダー これも編集者が使用するが、ページ番号だけ、つけておいてかまわない。「著者名は書かないこと」左寄せ、9pt。出来上がりは「ページ番号、2 文字分のスペース、著者の姓が入る（著者が 6 人以上の場合は、et al.を使う）」

1.1.3. 奇数枚目のページのヘッダー

右寄せ、9pt「タイトル、2 文字分のスペース、ページ番号」を一行に収めて書くこと。タイトルはキャピタライズする。

例.

Interpretation of Japanese Noun Phrases 5

2. フォント（基本的に **Times**、もしくは **Times New Roman** を使う）

注意：この方式は APA とは異なるものを含む。

1) タイトル: 12pt、Bold、キャピタライズすること。左寄せ。

SLSstyle.dot では Title 書式

2) タイトル以外：(著者名、ヘッディングなど本文) 10pt

著者名は、著者ごとに、(名前と所属の間、2 文字分スペースを入れる)

Given_name Family_name, Affiliation(University/Institute/Company) とする。

Given_name も Family_name も大文字。

SLSstyle.dot では Author 書式

例

HIDETOSI SIRAI, Chukyo University (これは査読の前に編集者が削除するが、原稿提出の時点では書いておいてほしい)

3) セクションのタイトル: トップレベルのみ bold。左寄せ、キャピタライズする。イタリック体を使わないこと。

セクション番号はアラビア数字を使い、ピリオドを中間と最後に置く。

セクションのタイトルの前に一行あける。ただし、セクションタイトルが続く場合はあけない。以下レベル 3 までのセクションの例。レベル 4 は番号なしでイタリック体で書く---普通はレベル 3 まで。

1. Introduction (トップレベルなので bold)

We discuss how to write a good paper

1.1. Theory and Hypothesis

Here comes a subsection

1.1.1. Participants of Experiment 1

例. セクションのタイトルが続く場合。その間に行あけしない。

3. Example

3.1. Hypothesis

4) 脚注 : 9pt。論文の最後 (Endnote) ではなく、同じページの下部 に書く。

Word では、「挿入」→「参照」→「脚注」

5) 一般的な書式 :

本文も例文も Abstract も原則としてすべて「両端揃え」

Abstract の文章は、全体に英字で 3 文字分 (日本字で 1.5 文字分) 左 をあける。先頭行をインデントしないことに注意。基本的にひとつの パラグラフで書く。やむを得ず複数のパラグラフにまたがる場合でも、先頭行はインデントしない。

SLSstyle.dot では AbstractBody 書式

本文の文章では、下線をなるべく使わないこと。強調はイタリックか bold を使用する。

SLSstyle.dot では Body 書式

各パラグラフの先頭では、英字で 3 文字分 (日本字で 1.5 文字分) インデントする。

例 : 論文一ページ目

The L2 Child as Arbitrator 論文の表題

BONNIE D. SCHWARTZ, University of Hawai'i 著者名、所属

Abstract ここから概要

This essay puts forward the thesis that the study of nonnative language acquisition by children (whose initial exposure to the Target brabrabra ...

... abstract continued

comparisons are provided.

1. Introduction セクションタイトルに続き本文

What is the status of child L2 acquisition in relation to the broader field

(例の終わり)

3. 表、図、例文

3.1. 表 (APA と異なる): 左寄せ キャプションは表の上に、左寄せで書く。Table の後一文字分スペースを置き、シーケンシャル番号、ピリオド、スペース、表の簡潔な説明、を書く。表の説明の文はキャピタライズする。イタリックしない。

例.

Table 3. Descriptive Statics for Perlocution

APA によれば、縦線を使わないが (これは文化の違いもあるので、厳密に守らなくともよい) 横線は使う (罫線をまったく使わない人も いるが、見にくいのでせめて横線を引いてほしい)。できれば、Excel の表を埋め込むのではなく、Word 中に書いてくれると、フォントがはっきりしてよいし、修正も楽になる。

表の中の記号の説明は、表の下に Note. (イタリック) に続けて 書くこと。記号の説明もキャプションではなく、表の下、Note に続けて書く。ただし、有意水準を示すような記号³に対する注釈の場合、それだけを書くのなら Note は不要。それ以外の項目があれば、確率 は最後に書く。

例.

** $p < .01$. *** $p < .001$.

例 10.

Note. The participants ... responses.

* $p < .05$. ** $p < .01$.

3.2. 図: 図は中央になるよう置く

キャプションは図の下に (表と異なる)、左寄せして書く。

Figure の後一文字分スペースを置き、シーケンシャル番号、ピリオド、スペース、図の簡単な説明、ピリオドを書く。キャピタライズしない

(先頭の単語および固有名詞のみ、キャピタライズする)

例.

Figure 3. Example of acceptable figure.

図は白黒印刷されることに注意し、なるべくカラーを使わないようにする。また、可能な限り 600dpi 以上の解像度の図を用意すること。

³確率を表す p はイタリックを用いる。

図で網掛けるのもなるべく避ける（違いがわかるような網掛けならば可。ただし、白黒で印刷したとき、真っ黒にならないよう注意）

3.3. 日本語の例文など

原則として文節単位か形態素単位で分かち書き(今のところ基準はない。論文によって焦点が異なるので、著者に任されている)されたローマ字(訓令式よりもヘボン式が普通)を使うが、やむをえない場合は日本語表記も可。その場合、英字と比べると大きく見えるので、英字と比べて1ポイント小さめ(本文なら9pt、脚注なら8pt)の[明朝体]の字を用いる。

例文において日本語ローマ字はイタリックで書き、対応する英語を一重引用符でくくって示す。

例 *uma* ‘horse’

発話の場合は、以下の例に従う（必須ではない）⁴

例

(5) Wh-Question:

Sunuupii,	nani-Ø	tabe-ta	no?
Snoopy	what	eat-PAST	Q

“What did Snoopy eat?”

こつは、Word:「書式」の「タブとリーダー」を使うこと。タブで対応する単語の位置を合わせる。

3.4. その他 細かいことであるが：引用符にも気を配ること。

‘abc’ “this is a sample” のような引用符が使われていることがある（厄介なことに混在していることもある）。これを

‘abc’ “thie is a sample” のような引用符に変える。

こつ：Word:「編集」の「検索・置換」を使って見つけて変換する（しかない…）この時、「オプション」で「書式の削除」をしないと見つからない場合がある。

4. 文献参照

本文中や脚注などで引用されている文献と文献リストに載っている文献とを照合することが必要。わからない場合は、amazon.com や google を使うとほとんど調べることができる。

ある文献で引用された別な文献を引用する場合は APA4.16, 22 を参照のこと。

⁴日本語の機能説明の記号について Appendix A を参照のこと。

4.1. 引用

4.1.1. 本文中の場合

(6 人以下の場合は)著者名をすべて書く。&でなく and を使う。3 人以上の場合は、A, B, and C となる。7 人以上の場合は、第一著者 に続けて et al. とする。(APA 4.16, p.240-241) 年号、ページ数などは括弧の中に書く。

例 14. Barwise and Perry (1988, p. 30)

4.1.2. 括弧の中の場合 and は&を使う。カッコ内は、アルファベット順に並び替える(発表順ではなく!)。区切り記号は ; を使う。著者名と年号との間にコンマを書く。

例. (see Clancy, 1988; Sells, & Iida, 1985; van der Sandt, 1990)

4.2. 文献リスト(本文と同じ 10pt)

二行目以降、英字 3 文字分インデントする。(インデントの設定を 使う)。`SLStyle.dot` では Reference 書式。

書き方は APA マニュアル参照のこと。かなり勉強が必要だが、以下 に例を示す。(APA 4.07)

同じ著者の文献の場合、年代順に。同じ著者による同じ年代の文献の 場合は、2000a, 2000b のように区別する。同姓の異なる筆頭著者の場合は、最初のイニシャルでアルファベット順に並べる。同じ著者による文献では、単著を先に書き、共著を後にする。共著の場合は、第二著者のアルファベット順にする。

4.2.1. 学術誌の論文 : (定期的刊行物の論文誌の表題のみイタリック、キャピタライズ) 巻数はイタリック、号数はカッコ内にローマンで書き、コンマに続けてページ番号を書く。最後はピリオドで締める。

例.

Schwartz, B. D. (1992). Testing between UG-based and problem-solving models of L2A: *Developmental sequence data. Language Acquisition, 2*(1), 1-19.

4.2.2. 本 : (本のタイトルをイタリックに)。出版者の場所 : 出版者 名、を最後に書く。出版社の Co.や Inc.や Publishers は削除するが、 Books や Press は残す(APA4.14)。

例.

Nakayama, M. (1997). *Acquisition of Japanese empty categories*. Tokyo: Kurosio.

日本語の文献など英語以外の書籍の場合。原著名をローマ字イタリックで書いた後に、括弧内に英訳をする。(APA4.16, 31)

例

Noji, J. (1974-1977). *Yooji no gengo seikatsu no jittai* [The nature of an infant's language] (Vols. 1-4). Hiroshima: Bunka Hyoron.

4.2.3. 本の中の論文： In に続けて書籍の情報を書く。書籍の編者名の順番は、Given, Family の順になることに注意。編者が一人の場合、(Ed.)となる。ページは、論文と異なり、本のタイトルに続けて、(pp.30-35)のように書く。(APA 4.13)

例

Wexler, K. (1994). Optional infinitives, head movement and the economy of derivations. In D. Lightfoot & N. Hornstein (Eds.), *Verb movement* (pp.305-350). Cambridge: Cambridge University Press.

4.2.4. MA・Ph. D. 論文(APA 4.16, 56 & 57)

例

Whong-Barr, M.K. (1999). *A child L2 study: Acquisition of the English dative alternation by Korean and Japanese speakers*. Unpublished doctoral dissertation, University of Durham, Durham, United Kingdom.

例 21

Lee, S.-Y. (2005). *Development in the L2 acquisition of English reflexives by Korean adults and children*. Unpublished master's thesis, University of Hawai'i, Manoa.

4.2.5. 大会での発表(年だけではなく月もいれること。ただし引用では 月は不要)
(APA4.16, 51-53)

例

Schwartz, B.D. (2003, May). *Certainly not the last word on L2 acquisition*. Paper presented at the Conference on Knowledge of a Second Language—Epistemological and Empirical Issues. University of Southern California, Los Angeles.

論文集が出ている場合は次(論文集は「本」扱い)(APA4.16, 49 & 50)

例

Becker, M. (2000a). The acquisition of the English copula. In S.C. Howell, S. Fish & T. Keith-Lucas (Eds.), *Proceedings of the 24th annual Boston University Conference on Language Development, Vol. 1* (pp. 104-115). Somerville, MA: Cascadilla Press.

4.2.6. Web page

例

Benoit, B. (2003). Teaching essay writing in Japan. *TOEFL Mail Magazine, vol. 18*.

Retrieved September 2, 2005, from http://www.cieej.or.jp/mailmagazine/toefl_backnumber/mm18/gpc.html#top

4.2.7. CD-ROM

例

Baayen, R.H., Piepenbrock, R., & Gulikers, L. (1995). *The CELEX Lexical Database (Release 2)* [CD-ROM]. Philadelphia, PA: Linguistic Data Consortium, University of Pennsylvania [Distributor].

4.2.8. Software

例.

Miller, M. E. (1993). *The Interactive Tester (Version 4.0)* [Computer Software]. Westminster, CA: Psytek Services.

4.2.9. Brochure (APA 4.16, 33)

例.

Educational Testing Service. (1997). *TOEFL Test and Score Manual: 1997 Edition*. [Brochure]. Princeton, NJ: Educational Testing Service.

4.2.10. 団体や機関が著者の場合。略記を使わず、正式名称を書く。例。(MEXT という略称があるが、正式名称を書く) (APA4.04)

Ministry of Education, Culture, Sport, Science & Technology. (2001). *JET puroguramu hyoka chosa* [An evaluation study on the JET program]. Retrieved 10 October, 2004, from http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/13/11/011121.htm#mokuji2.

5. その他

メールアドレスや URL を書くと、Word は時々、ハイパーリンクを勝手に設定してしまうことがある (印刷すると、その場所に下線が引かれるのでわかる)。ハイパーリンクを解除するには、その文字列をマウスで指定し (先頭を左クリックし、末端までドラッグする)、右 ボタンを押してプルダウンメニューを表示させ、「ハイパーリンクの 削除」を選択する。

Appendix A. 語の機能に対する注の案(記号は small capital)

1. 人称、性、数

1st, 2nd, 3rd	first/second/third person
FEM, MASC, NEUT	feminine/masculine/neutral
SG, PL	singular/plural
PER, NUM, GEND	person/number/gender

2. 表層格

Subj, Obj, IObj, Top, Obl	subject/object/indirect object/topic/oblique
---------------------------	--

3. 深層格

ACC, AGT, NOM, DAT	accusative/agent/nominative/dative
GEN, LOC, INST, PAT	genitive/locative/instrumental/patient
SRC, GOAL	source/goal

4. 範疇名・品詞

N, NP	noun/noun phrase
V, VP, Vi, Vt	verb/verb phrase/intransitive verb/transitive verb
Adj, AdjP	adjective/adjective phrase
P, PP	pre(post)position/pre(post)positional phrase
SFP	sentence final particle
COP	copula
Adv, AdvP	adverb/adverb phrase
Comp	complementizer
RC, S	relative clause/sentence

5. アスペクト、態、時制

PROG, DUR, PERF	progressive/durative/perfective
CAUS, PASS	causative/passive
PAST, PRES, FUT	past/present/future

6. その他

HON, NEG	honorific/negative
POL, HUM	polite/humble
REF, ϕ , t	reflexive pronoun/zero (ellipsis)/trace
CL	classifier

Appendix B. 書式ファイルの使い方

Word : 「ツール」 から 「テンプレートとアドイン」 を選択し、『アドインとして使用できるテンプレート』の『追加』を選択して、**SLStyle.dot** を選ぶ。それにより、**SLStyle.dot** で定義している **Body** や **Reference** などの書式が使えるようになる。定義された書式を表示させるには、「書式」から「スタイルと書式」を選択する。